

**会津若松市の取組に関する市民意識調査  
結果報告書**

**平成27年4月**

**会津若松市**

## ～ 目 次 ～

I : 調査概要.....	1
(1) 調査の目的.....	2
(2) 調査対象.....	2
(3) 抽出方法.....	2
(4) 調査期間.....	2
(5) 調査方法.....	2
(6) 調査内容.....	2
(7) 回収状況.....	2
・要 旨.....	3～4
II : 調査結果 (属性) .....	5
(1) 性別.....	6
(2) 年齢.....	6
(3) 世帯構成.....	7
(4) 同居の家族 (家族構成でひとり暮らし、未回答以外) .....	7
(5) 主な職業.....	7
(6) 通勤・通学先.....	8
(7) 居住地域 (小学校区) .....	8
(8) 本市にお住まいの期間 (通算の居住年数) .....	9
III : 調査結果 (設問) .....	11
◆ 健やかで思いやりのあるまちづくりの取組について.....	12～14
◆ 豊かな心と個性を育むまちづくりの取組について伺います.....	15～18
◆ 活力あるまちづくりの取組について伺います.....	19～29
◆ 快適で利便性の高いまちづくりについて伺います。.....	30～31
◆ パートナーシップのまちづくりについて伺います.....	32～34
◆ 市政運営について伺います.....	35～41
◆ 市役所の庁舎について伺います.....	42～44
◆ スマートシティ会津若松について伺います.....	45
◆ 市の政策の満足度について伺います.....	46～56
IV : 自由記述回答一覧.....	57
◆ 問 5 .....	57～91
◆ 問 1 5 .....	92～125
◆ 問 1 9 .....	126～149
◆ 問 2 2 .....	150～179
◆ 問 3 0 .....	180～202
◆ 問 3 8 .....	203～230
◆ 問 4 1 .....	231～243
◆ 問 4 8 .....	244～259
◆ 問 5 3 .....	260～269
◆ 問 5 5 .....	270～295
◆ 問 5 8 .....	296～308
◆ 自由意見.....	309～358
V : 参考資料 (質問票) .....	359

# I : 調査概要

## (1) 調査の目的

この調査は、現行の第6次会津若松市長期総合計画に基づく市の施策、取組について、市民の皆様のお考えや意見を聴取し、平成29年度を始期とする次期長期総合計画策定における基礎資料とすることを目的とします。

また、この調査を通じて、市民の皆様と、市の「地域活力の再生に向けた取組み」に位置づけた取組や様々な地域の課題に関する情報を共有することで、市政への市民参加の意識をより一層高めることを目指しています。

## (2) 調査対象

会津若松市に住所を有する満18歳以上の市民4,000人

## (3) 抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

## (4) 調査期間

平成26年9月24日（水）から平成26年10月20日（月）まで

## (5) 調査方法

郵送による配布及び回収

## (6) 調査内容

- 取組にかかる調査58項目（選択式47項目＋自由記述式11項目）
  - ・ 健やかで思いやりのあるまちづくりについて
  - ・ 豊かな心と個性を育むまちづくりについて
  - ・ 活力あるまちづくりについて
  - ・ 自然にやさしく安全で住みやすいまちづくりについて
  - ・ 快適で利便性の高いまちづくりについて
  - ・ パートナーシップのまちづくりについて
  - ・ 市政運営について
  - ・ 市役所の庁舎について
  - ・ スマートシティ会津若松について
- 基本施策にかかる満足度調査（選択式28項目＋優先3項目）
- フェイスシート
- 自由意見欄

## (7) 回収状況

配布数	回収数	回収率
4,000	1,285	32.1%

## 1 回答者の属性

本調査の回答者は、60歳代以上が半数以上を占め、年齢が低くなるほど回答率が下がっています。

世帯構成を見ると、単身者・核家族の世帯の回答が82%を占めており、また、居住年数については30年以上の回答が59%を占める結果となりました。

これらのことから、今回の調査においては、本市に長く居住し現況をよく理解している経験豊富な方々からの回答が多いことがわかります。

## 2 回答の傾向

回答全般を通して、概ね市の施策や取組の方向性については理解を得られており、そのほとんどについては積極的に進めるべきとの意見が多く見られる結果となりました。

一方で、「孤立死防止等ネットワーク」、「あいづまちなかアートプロジェクト」、「会津若松医工連携推進プロジェクト」、「頑張るものづくり企業支援事業」、「市民協働推進指針」といった一部の施策や取組については「知らない」との回答が半数以上を占め、比較的新規かつ先進的な事業ほど認知度が低い傾向も見られます。

このことは、市からのより積極的な広報活動と情報発信が重要であると同時に、施策の検討や実施の際の市民参加の機会を拡大し、市民の活発な議論と十分な理解に基づく市政の運営が求められていることを示しています。

## 3 テーマ別 回答の傾向

調査結果について、主なテーマごとの回答の傾向は次の通りです。

### ● 健やかで思いやりのあるまちづくりの取組について

子どもたちの医療体制の充実や学童保育など全般的に関心が高く、積極的に進めるべきだとの回答が多い結果となりました。

### ● 豊かな心と構成を育むまちづくりの取組について

ICTをはじめとする人材育成に関する取組については、積極的に進めるべきだとの回答が多い結果となりました。

### ● 活力あるまちづくりの取組について

企業誘致や本市物産の販路拡大・消費拡大、再生エネルギーの利用などの取組については、積極的に進めるべきとの回答が多いです。

また、地域を活性化する取組については、観光誘客イベントの増加、大型商業施設の誘致、まちなみの整備などの「魅力づくり」に力を入れるべきと考える方が多く、地域産業を活性化するためには、企業誘致の促進や新産業の創出支援に取組むべきと回答した方が多い結果となりました。

● **自然にやさしく安全で住みやすいまちづくりについて**

公用車への電気自動車の導入や再生可能エネルギーの利用促進等の取組については、東日本大震災の影響もあってか、感心が高いです。

また、災害時の避難の手伝いができるかとの問いには、69%の方が「できる範囲での手伝いができる」と回答しています。

● **快適で利便性の高いまちづくりについて**

除雪の費用については「妥当だと思う」との回答が36%、「更に充実すべき」が20%、「高い」が18%と意見が分かれる結果となりました。

除雪計画については、地域との事前協議の必要性や情報提供不足をあげる声が多かったです。

● **パートナーシップのまちづくりについて**

「市民協働推進指針」について、知らないという回答が88%を占めました。

また、多くの方が、地域住民自らが課題解決に向けた活動を行い、市はその活動を積極的に支援すべきである、と考えていることがわかりました。

● **市政運営について**

公共施設の維持管理費については半数以上の方が高額だと感じており、より合理的な利用を進めるべきであると考えていることがわかりました。

● **市役所の庁舎について**

新庁舎の建設は、進めるべきと進めないべきとの意見が分かれる結果となりました。進めるべきと考えている方の意見としては、庁舎の統合と利便性の向上を理由にあげる方が多く、進めないべきと考えている方の意見としては、財政負担を指摘する声が多くあげられました。

● **スマートシティ会津若松について**

スマートシティの取組については、比較的関心の高さが見てとれる一方、スマートシティの概念自体は正確に浸透していないことがうかがえます。

このことから、引き続き、スマートシティの取組についての理解が深まるよう、市民の皆様へわかりやすく、丁寧に説明していく必要があることがわかりました。

● **市の政策の満足度について**

各種政策の満足度については、全体的に「普通」との回答が多く、次に「やや不満」が多いという結果で、満足度が高いとは言えない結果となりました。

また、市が重点的に取り組むべき政策について聞いたところ、「子育てしやすいまちをつくる」、「高齢者が元気にくらせるまちをつくる」、「雇用を安定的に確保し労働福祉が充実したまちをつくる」、「雪に強いまちをつくる」、「中心市街地を活性化し賑わいのあるまちをつくる」といった取組が求められていることがわかりました。この傾向は、回答者の年代を問わず見られ、また、満足度も「やや不満」の声が多い政策であることから、これらの取組については、全市的により一層の充実が求められていると言えます。